

「日田市総合的な子ども支援拠点整備計画」について

(20221222) 中島章二

「子ども・子育て支援事業」に反対するものではなく、「効果のあるもの」「市民がこの事業ができて良かった」と感じられるものとならなければならない。

今回、私がこの事業予算案を減額修正すべきと判断した理由は、下記のような課題、問題点、疑問からです。

★子ども・子育て支援に対する課題

- ・支援拠点で展開される子ども・子育て支援の具体的な内容が精査されていない
- ・支援拠点が受ける相談数や利用者数の見込みを算出し、そこから必要な職員体制、相談方法、安全面などについての考えなければならない
- ・集約化というメリットはあるが、職員をスライドさせただけで、結果として現状と何も変わらないと感じられる
- ・周辺部への支援策が明確ではないことから、周辺部との格差となる恐れがある
- ・日田市で、「子ども家庭相談室」が既に行っている現在の困りに対応できる支援拡充策

★事業計画立案に関する問題点

- ・計画されていた市民向けの講演会などでの周知啓発や、検討委員による先進地視察が行われていない
- ・利用対象者全体から意見を集めていない
- ・パブリックコメントや学校現場から出された意見への回答に丁寧さを感じられない。
- ・検討委員会での議論を集約していない。
- ・4億円を超える概算工事費について、委員から質問があったにも関わらず、検討委員会で議論を交わしていない
- ・機能整備の議論が不十分な状況のまま、ハコモノ整備事業に変更されている
- ・「子ども家庭庁」の動向を見て計画すべきではないか

★予算議案の提出に対する疑問

- ・議案説明に関する資料・情報がはつきりしていない状況で議会に提出したと感じる
- ・十分な議案とは思えない提案をして、責任を議会に転嫁するのか
- ・これまでも同様の未成熟な状態での事業提案が繰り返されており、反省はないのか、市民のための必要な事業ならば、もっと練り上げて確実な予算議案として提出するべきではないか